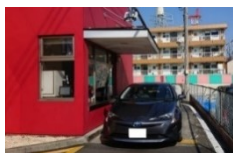


ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化について
～都市部は5年、地方部は10年程度での概成に向けたロードマップの策定～

ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化について

ETCの活用による利便性向上等

- 料金所渋滞の解消
- 将来的な管理コストの削減
※ETCは現金収受の約1/6のコスト
- 高速道路内外の各種支払における利便性向上
(例)ドライブスルー等でのETC活用



令和2年7月より ケンタッキーフライドチキン
(相模原中央店)での試行運用を実施

など



社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス等を踏まえた
 - ・持続可能な料金所機能の維持
 - ・料金収受員や利用者の感染リスクの軽減※料金収受員の感染者数のべ26名(12/15時点)

- ETC利用率の拡大

	2006年	2020年
首都高	69.8%	96.2%
阪高	62.0%	95.7%
NEXCO	59.6%	92.4%

など

ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進

【基本的進め方】

- ・都市部は5年、地方部は10年程度での概成を目標
- ・当面の間、料金精算機とETCを併用することも検討
- ・早期に周知・広報することにより、利用者の混乱を回避

ETC専用化のロードマップについて

都市部(首都圏)

都市部において
5年後概成

地方部を含めて
10年後概成

	料金所数 (※1)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	...	2030年度頃 (R12年度頃)
首都高	181	導入準備 (※2)		30箇所 程度で順次導入		順次拡大(9割)		順次拡大 ⇒ 全線		
NEXCO 2社	147	導入準備 (※2)		首都圏(圏央道及びその内側) 順次拡大(7～8割程度)				順次拡大 ⇒ 全線		

※ 料金所の構造や交通量が多く、並行又は接続する一般道を含めた渋滞等の課題がある路線(第三京浜・横浜新道・横浜横須賀道路・京葉道路・東関東道)の料金所については、引き続き検討

都市部(中京圏)

	料金所数 (※1)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	...	2030年度頃 (R12年度頃)
NEXCO	71	導入準備 (※2)		中京圏(東海環状及びその内側) 順次拡大(8割程度)			順次拡大 ⇒ 全線			

都市部(近畿圏)

令和7年4月に開催される予定の「大阪・関西万博」への影響も考慮し、適時変更の可能性

	料金所数 (※1)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	...	2030年度頃 (R12年度頃)
阪高	144	導入準備 (※2)		5箇所程度 で導入	順次拡大(8割程度)			順次拡大 ⇒ 全線		
NEXCO	94	導入準備 (※2)			近畿圏 (京阪神地区及び京奈和道の内側) 順次拡大(7~8割程度)			順次拡大 ⇒ 全線		

地方部

	料金所数 (※1)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	...	2030年度頃 (R12年度頃)
NEXCO 3社・本四	883	導入準備 (※2)		数箇所で導入 ⇒ 運用状況や各地域の特性等を 考慮しつつ順次拡大					全線	

※1 令和2年12月1日現在の既存料金所のうちETC専用運用されていない料金所数

※2 カメラ等の設置や関係機関との協議等

※3 導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議等により、適時変更の可能性

E T C専用化等の主な課題と対応方針

主な課題

ETCカード非保持者

クレジットカードを作れない方への対応

車載器非搭載車

ETC車載器非搭載の方（高速道路利用・運転頻度が低い方等）への対応

非ETC車の誤進入等

高速道路に誤進入等した非ETC車への対応

対応方針

ETCパーソナルカードの利便性向上



- ・ クレジットカード不要の「ETCパーソナルカード」の利便性向上

デポジット下限	20,000円	3,000円へ引下げ
利用限度額	デポジットの80%	デポジットの100%に引上げ

車載器購入費の助成

- ・ ETC車載器の購入費助成による負担軽減

料金精算機の併用・事後徴収

- ・ 当面の間、ETCと料金精算機との併用等を検討
- ・ 車両ナンバー情報を基に事後徴収する対応を今後検討

将来的な検討事項

以下について、ETC専用化等の進展を踏まえ、引き続き検討。

- ・ ETC車と非ETC車の料金徴収コスト差を踏まえた非ETC車の割増負担
- ・ 管理コストの低減状況を踏まえた利用者への還元策
- ・ 将来的な本線料金所の撤去

等

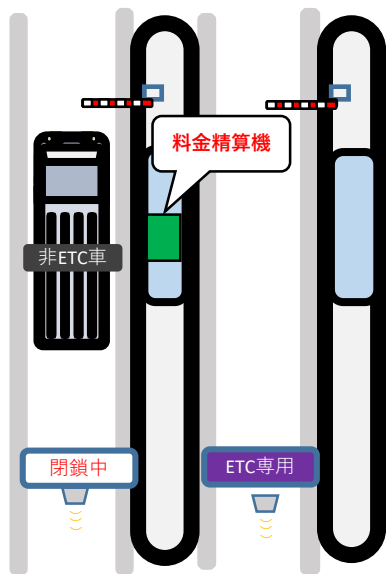


料金精算機

非ETC車にかかる料金所の主な運用イメージ(現時点案)について

導入時～当面の間

パターンA (ETC+料金精算機)



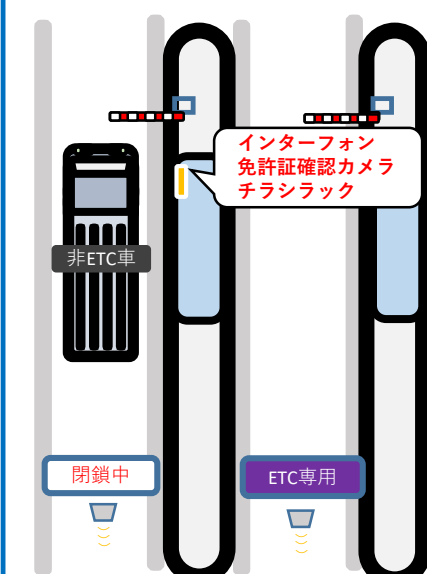
サポートレーン(仮称)

パターンB (ETC+後日支払い①)

※免許証確認

支払手順

- ① インターフォン・カメラで利用者の連絡先・免許証を確認
- ② 「後日支払チラシ」を受取り
- ③ チラシに従い料金支払い



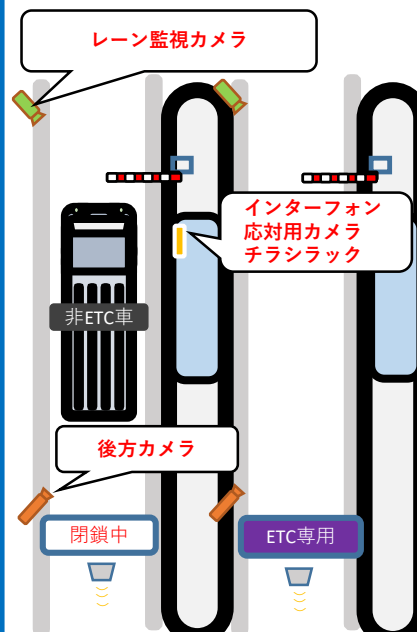
サポートレーン(仮称)

パターンC (ETC+後日支払い②)

※ナンバープレート確認

支払手順

- ① カメラでナンバー読み取り
- ② 「後日支払チラシ」を受取り
- ③ チラシに従い料金支払い



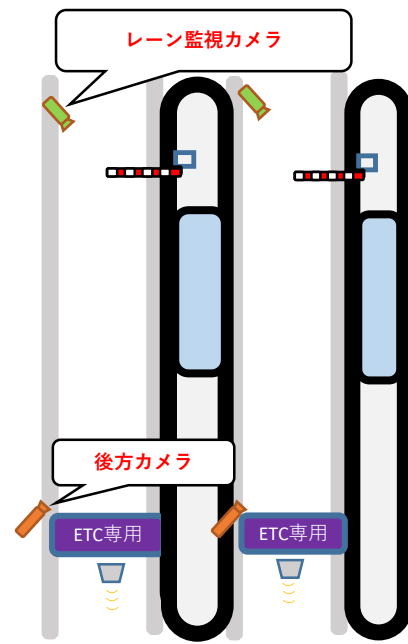
サポートレーン(仮称)

将来イメージ

ETC専用

支払手順

- ① カメラでナンバー読み取り
- ② 読取ったナンバーにより車籍照会
- ③ 車籍照会により判明した車両より事後徴収



※ パターンA、Bにおいても、事後的な確認のためナンバープレートを撮影することがある

※ 各料金所の現況等を踏まえ、各社が適切な手法を選択
 ※ 関係機関との協議、導入後の運用状況等により、適時変更の可能性
 ※ 仮ナンバー車両等特殊な車両に係る運用は引き続き検討